

# 再生

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



師友道友の活動を綴る善行伝承誌

心願をもって貫かねば、いかに才能ありともその人の「一生」は真の結晶には到らぬ。

森信三先生一語千鈞より



第0060号

2021.8月号

令和参年

実践人福岡仁風読書会

# 現代における孝の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

## 十三 孝は東洋的叡智による宇宙的真理

### 戦後思想の反省

われわれ日本民族は、昭和二十年八月、無条件降伏の宣言いらい、敗戦という未曾有の歴史的事実を痛験したわけではありますが、こうした戦後の経験への一大痛省として、アメリカ思想の移入と共に、それまでの一切がいわゆる「封建的」なものとして根本的に批判せられ、そしてその崩壊後これに代るべきものとしての民主主義こそ、戦後思想の最大の旗印だったわけであります。

このように、いわゆる封建的なものに対し、その代りとして民主主義が移入されると同時に、男女同権が強調せられて、婦人の選挙権の獲得について、教育制度の改革として男女共学が施行されるにいたったのでありまして、その他男女教員間における給料格差の是正等々、あらゆる面において重大な変革が為されたことは、今さら申すまでもないことであります。

一方敗戦後は、こうしたもろもろの重大な変革に伴って、戦前の精神主義の行き過ぎのリアクションとして物質文明の威力に目覚め、やがて物質偏重への傾斜を見るに至ったのが現状といえましょう。即ち工業生産の飛躍的な発展にともない、ついには「使い捨ての美德」というような極端な標語すら一部には唱えられるまでに到ったのであります。然るに昭和四十七年のオイルショック以来、わが国の産業構造の上にも重大な変化が招来せられると共に、一般消費面においても大きな緊縮を余儀なくされるに到ったわけであります。

ところで戦後1/3世紀を過ぎた現在、戦後移入せられた民主主義も今やその絶対視に対して、その反省が始まろうとしつつあるかに思われるのであります。

否、その兆候はすでにあらゆる面において兆しつつあるといつてよいでしょう。同時にこうした点にこそわれわれ日本民族の最大の特徴ともいえるべき「バランス感覚」の長所を思うのであります。

ところで民主主義については、その立て前というかその意図するところには何ら異論はないわけですが、しかし問題は西洋の民主主義は、徹底した個人主義を基盤とし土台として成立したものだということであります。即ちそこでは個人の自由と権利とが尊重される反面、義務と責任がきびしく要求されるということでもあります。同時にこの点が、たんに外面的形式的に模倣したわが国の民主主義とは大いに異なるのでありまして、今やこの点に対する深省を要する段階となったといえましょう。即ち徹底した義務と責任の遂行が要求され、教育においても個人の自立自由と共に、この点こそその眼目となっているといえるようになります。即ち戦後わが国に横行した義務の履行なき単なる権利の主張、責任の遂行なき単なる自由の主張は、社会秩序への由々しき混乱を招くわけであります。

また男女同権にしても、もともと法律的な思想でありまして、複雑微妙な男女の問題は、そうした単なる法律的範疇だけで形式的で片づけるわけには、ゆかないものがあるのであります。即ち男女という生身の相違からくる男女の天分と使命の相違については、両者を単に平等とする形式的な割り切り方だけでは、どうしても片づけられぬものがあるわけであります。随って男女共学の問題にしても、当然男女の性別に則った扱いが考えられるべき時期に到達しているかと思うのであります。

実践人福岡仁風読書会 第56回 7月3日(土)

場所福岡市博多区大井2丁目 大井中央公園にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

## 子どもと校長

学科の成績がわるいと、人間自体が劣っているかのように、親も教師も本人も思い込んで劣等感に陥っていくことが多く、更に成績は下がっていく。私は幸に、この芸能作品の中から、子どもの長所を発見し、自信をつけ、自ずと学科の成績も上つていくように努めた。

作文・図工・習字などの芸能作品は、

『心のレントゲン写真』

である。院長はそれを読みとつて担当の医師に適切な指示をする。校長もひとりひとりの「レントゲン写真」をいつもみて居なくては子どもの十全な発達は望まれない。

校長と名がつくだけで、社会的にはきびしい眼で四六時中しばられているが、純心な子どもは、これは絶対的に尊敬の眼で見守ってくれるものである。その尊いイメージをこわすようなことがあつてはならない。校長が廊下を通るとぞろぞろとついて来たり話しかけたりする。そこには親しさと何らかの憧れがある。それは、人間的愛情と教育的識見によるような気がする。その意味で、教育心理、精神衛生学、大脳生理学を少しでも勉強していたのは助かった。又、校長室でも勉強した。

「校長室の前を通るたびに、暇を見つけて勉強していらつしやった校長先生の面影が部屋の外まで感じられます。」

という女の先生のハガキによつても、その読書の姿をかいま見る教師や子ども

もへ強い影響があることがわかる。

又、何かの特技があることはやはり憧れのもとになろう。しかし特技があつても、それを更に勉強していく姿がうつらないとまずいと思う。子どもたちは、

「やつぱ、校長先生があつた。」

「校長先生じゃけ上手くさ。」

といった具合に簡単にかたづけ、子どもへの意欲づけとはならない。現実だけしかわからないのである。勉強する姿、努力する姿を見せねば承知しない。あんなに勉強されるからうまいのだな—と思わせることが、子どもの学習意欲をそそるのである。

たとえ特技がなくても、むしろ、努めている姿の方が大せつなことではなからうか。剪定鋏をもつて昼休みに校庭を回る姿でも、いつか子どもの眼に焼きつけられているものである。斎藤一斎の言のように

「無為にして化す」ことが、「教の神」であつて、自分の勉強そのものが、子どもの教育になるといふのであれば、このくらい得な商売はちよつとあるまい。

それにしても、あくまでひとりひとりが尊いのである。常に担任教師の相談に応じ、ひとりが過ちなく進むように、そして出き得れば、そのひとりひとりが、直接に触れ合い、親しみ、そして救うことの出きる校長でありたいと思つてきた。



だんだんと暑くなってきました。  
公園の外より中の方がゴミが多かったです。  
今日は花火を楽しんだ跡や、お酒を楽しんだ跡など、なんとなく嫌な散らかり方でした。  
いつもの感覚と少し違って、不思議です。  
お掃除の後は野外での読書会を初体験。  
読むことに力んでしまうことも、みなさんの声が心地よいことも、これまでを振り返ったり、とても良い体験でした。  
本日もありがとうございました。  
案の定、帰りの車で子供は爆睡でした。

TURUGA

公園の中の一等地は、高台にある広々とした見晴らしの良い場所です。そこはなんといってもお天道様に一番近い場所♡ですが残念なことに、一等地にはゴミが散乱していました。"酒とつまみを食べながら花火で宴会しました"と、言わんばかりにゴミが撒き散らかされています。一つ一つのゴミが、まるで人間の強欲の塊のようにさえ見え、同じ人間として腹立たしく思えました。ですがふと空を見上げてみると、、、お天道様が立派に顔を出してくれています。お天道様が顔を出してくれないと、人間は生きることさえできません、ましてや腹を立てることなんて叶わぬ夢です！立派な顔をしたお天道様を見ていると、どんな状況でも楽しみながら生きることが大切だと思えるようになりました♡いつもありがとうございます(^ ^)

MARIMARI

青空の下で、読書会を再開しました。



**第37回 福岡空港ミリオン清掃**

**7月3日(土曜日)**

**8名参加**



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 332 回

# 博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅  
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第332回 博多駅早朝清掃

28年目・・・

7月8日(木曜日)

101名参加



新たなステージは、一面がタイルばりの駅前広場☆記念すべき初日を祝うように、奏でられた音は・・・ガリガリ♪ゴリゴリ♪ガム剥がしの音です(^)

一人ひとりが、タイルにこびりついているガムを剥がそうと、真剣な瞳で格闘しています。一生懸命な姿は、見ている人に感動を与えます。やって楽し♡見て楽し♡新たなステージから、掃除の和がますます広がっていきそうです！いつもありがとうございます。 MARIMARI

332回目の「博多駅早朝清掃」は、集合場所を博多口に移しての開催となりました。

博多駅長はじめ101名の道友が参加。集合場所の1,000個を超えるガム剥ぎが今回の主な活動でした。

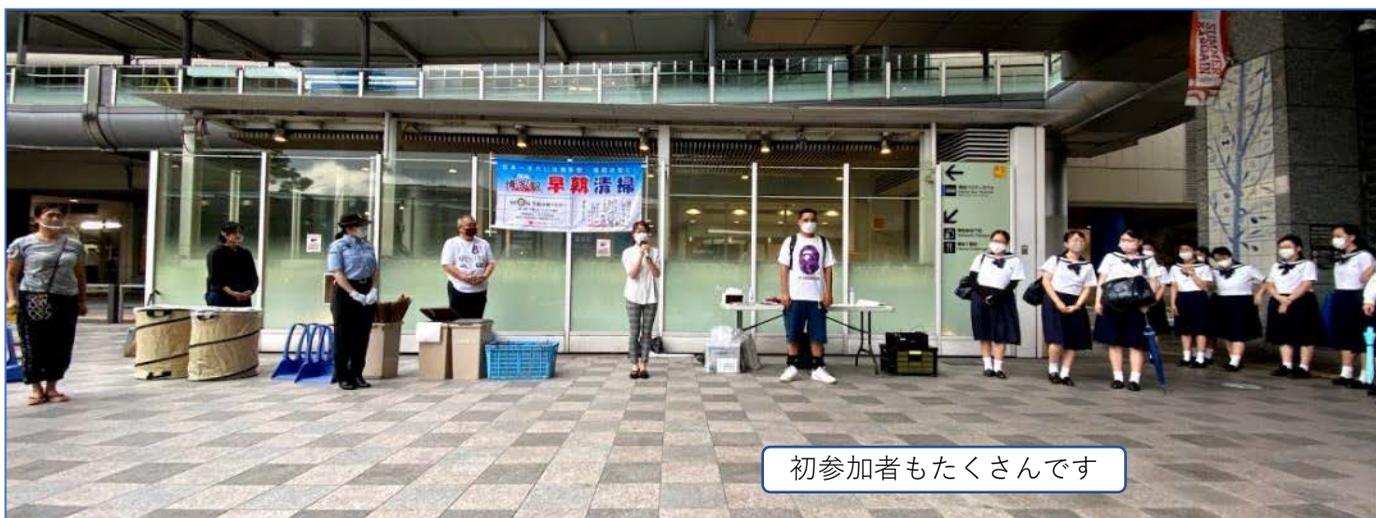
／世話人



『博多駅早朝清掃』新たな集合場所でスタート



博多駅長



初参加者もたくさんです



景色も、勝手もガラッとかわり、気持ちも新たにスタートしました。  
 ガム跡を取るのは初めてでしたが、かなり集中できる清掃ですね。おかげさまで、今日は1日、頭がすっきり。とても仕事はかどりました。本日もありがとうございました。  
 TURUGA



工事のため、ゴミの集積場所が変更



去年はなかった飾り山

令和を巡る早朝清掃／戒壇院 2020.1.25～

7月24日(土曜日) 第19回



# 耕作放棄地再生と清爽活動in酒殿2020.12.29~

7月10日(土曜日)



今回は酒殿駅周辺のゴミ拾いをさせていただきました♡汲み取り式トイレを横目に駅長さんの居ない無人駅を通り抜けると、新築の戸建てが点在する開拓中の新興住宅地です。そんな昭和と令和を体感できる酒殿駅を散策しながら、、、ご先祖さまからつながって今がある、今は未来につながる、、、ということは、昭和からそのままあるトイレを美しくすることは、新しい地域を美しい地域にするためには欠かせないことだ！そんな気合いの入る時間となりました(^^)いつもありがとうございます。

MARIMARI



# 新新塚駅早朝清掃/いづか明星寺団地自治会

7月17日(土曜日) 5名参加



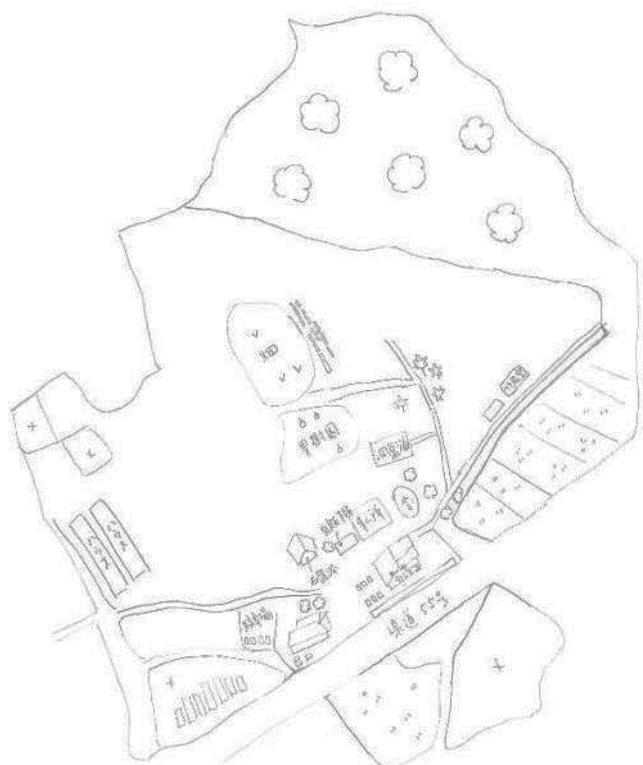
飯塚に素敵な追い風が吹き始めたようです♡  
なんと今回も、地域に住まれる新しい方が参加されたのです！地域の方同士も初対面でしたが共通の話題もあり大盛り上がりでした。地域を良くしたいという想いで繋がる人と人とのネットワークが、木の根っこのようにどんどん広がっていけば、立派な大木になって美しい花が咲きますね♡そんな希望を持てる時間でした。いつもありがとうございます(^\_^)♪  
MARIMARI



# 耕作放棄地再生に取り組む農友支援

糟屋郡志免町・鞍手町・

NPO法人 楽農人



鞍手観光農園完成イメージ  
2023年の完成を目指しています。



天然のサルノコシカケ



約10000坪の広大な山林を活用した自然の中で、森林浴を楽しみ、遊歩道を散策し、季節を全身で味わってもらいたい。そんな願いを込めた観光農園の開設を目指しています。

周辺の耕作放棄地も活用して、今年秋口からはニンニク栽培をスタートします。収穫には楽農人はじめ多くの友人たちが集う農園になるでしょう！おにぎりや豚汁を青空の下で味わう様子が目に浮かびます。

# 生命の林と人生 五七、 ゴッホの人生

021-7

光然京カルテラ

ゴッホが愛読したカーライフに連なるプロテスタントは、この時代に説いている。「人間として生まれる目的は他でもない……すでに人がこしらえたもの“改革者”“改造車”となることである。虚偽をすてる人、我々のすべてをかこむ偉大な自然を模倣して、真理と善とを復活する人となるのがその目的である。自然はひとときも古い過去の追憶のうちに眠らず、毎時力を回復して、毎朝新しい生命に躍動しながら、新しい生命をもたらしてくれる」。静止的な観想の対象として自然と見るのではなく、能動的な生命としてとらえられている自然に、命にあずかる人間の生き方を照応させること。認識という現象は自分が変化することである。自分が変化することでもものが違ってみえてくる。これこそ真の認識であるはずだ。だから芸術家は創作という絶え間のない革新、変動のなかに生きている。

それによって認識を得る。自然とともに、また人とともに。初夏の麦畑のなかで、ゴッホのなかを何か貫通する。「真理、善」とはここでは言わない。何か「恐るべき」もの。深い認識である。

神の被造物である自然のなかにも、人間のなかにも、神聖なものは宿っている。それゆえ、自然を知ること、神を知ることにつながる。経験に拠るのではなく、直感の詩と哲学をもって自然の魂にふれることは、神たる「神聖な精神が、我々の精神へと到来すること」を意味している。この考えもまたプロテスタントのものだ。「我々は黙示のかたちで、魂の叫び声を聞かされる。その本性に発する宣言を。これらは何時も、崇高の感情とともにやってくる。この伝言は、神聖な精神が、我々の精神へと到来することを意味している」。ここで言われる「魂の呼び声」は、しばしば「光」というアナロジーによって喩られるものだ。

そしてゴッホは、クロワの平野の麦畑での出来事をこう記すことができる。「自然がこれほどまでに美しいと、ときどき僕の頭は、ものすごく澄みきつてもはや自分で自分を感じず、絵は夢のなかのようにやってくる」



自画像  
1889年5月17日  
オランダ  
49x65cm

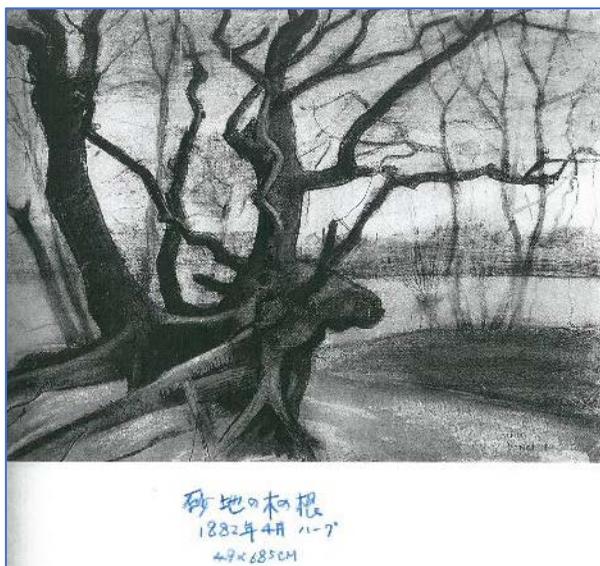
ゴッホはかつてこう語っていた。「神などなくてもやっていけるが、苦しんでいる僕は、何か僕以上に偉大なもの、僕の生命であり、想像力であるもの、それがなくてはすまされないのだ」。その「何か偉大なもの」とは循環する現象の途次に一瞬開示されるこのような「恐るべき」深い認識に他ならない。やがてゴッホは、「何か、宗教がどうしても必要なのだ」とうめくように記す。なぜなら、この至福の瞬間はほんのひとときであり、さらに新しく改められねばならぬものだからだ。ここに恐れがある。救いが求められる。だが画家は描き続けねばならない。それだけが新たな認識の瞬間を開示してくれるからだ。

オランダ王国、クレラー＝ミュラー美術館財団 ゴッホの四季、ゴッホの人生より 木島 俊介

二〇二一年七月二三日

広葉の林を育てる会

興膳 丈治



砂地の木根  
1882年4月 11-7  
49x65cm



再生八月号

令和参年八月八日発行（毎月一回八日発行）創刊 平成二十八年九月一日 発行人 富 袈裟右衛門

	8 月の活動予定表						9 月の活動予定表					
日	7	7	8	14	21	28	4	4	8	11	18	25
曜	土	土	日	土	土	土	土	土	水	土	土	土
行事活動名	福岡空港ミリオン清掃 第39回	福岡実践人仁風読書会 56回	博多駅早朝清掃 第333回	JR酒殿駅早朝清掃 第8回	新飯塚駅早朝清掃	令和を巡る早朝清掃 第20回	福岡空港ミリオン清掃 第40回	福岡実践人仁風読書会 57回	博多駅早朝清掃 第334回	JR酒殿駅早朝清掃 第9回	新飯塚駅早朝清掃	令和を巡る早朝清掃 第21回
場所	福岡空港 周辺二万m	大井中央公園	博多駅博多口	JR香椎線 酒殿駅北口	福岡県飯塚市新飯塚駅	福岡県太宰府市 戒壇院	福岡空港 周辺二万m	大井中央公園	博多駅博多口	JR香椎線 酒殿駅北口	福岡県飯塚市新飯塚駅	福岡県太宰府市 戒壇院
開始時刻	6時	7時	6時15分	6時30分	6時30分	6時30分	6時	7時	6時15分	6時30分	6時30分	6時30分
運営団体	福岡清爽クラブ	福岡実践人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ 楽農人耕作放棄地再生楽交	いづか清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡実践人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ 楽農人耕作放棄地再生楽交	いづか清爽クラブ	福岡清爽クラブ

楽農人遊休農地再生楽交の活動予定は<https://www.rakunoujin.com/>を確認下さい。

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

- ◇NPO法人福岡実践人 福岡清爽クラブ
  - ◇一般社団法人 実践人の家 福岡仁風読書会
  - ◇NPO法人 楽農人 耕作放棄地再生支援楽交
- 〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>  
 TEL 092-931-8155(掃除) 931-8150(読書) FAX 092-931-8120  
 E-mail fukusukai@souji.link (掃除)  
 kesa@rakunoujin.com(農業)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。